



荒木 淑郎 (学術)

昭和2年(1927年)1月1日生  
(満94歳)

【写真は本人提供】

荒木氏は熊本市で生まれる。熊本大学熊本医科大学を卒業後、アメリカ合衆国コロンビア大学等で臨床神経学の研究をした後、九州大学医学部助教授、川崎医科大学内科学教授、宮崎大学第三内科教授、熊本大学医学部第一内科教授、熊本大学医学部附属病院長を歴任し、平成4年熊本大学を退官した。九州大学、川崎医科大学、宮崎大学では神経内科を新設すると共に、日本神経学会の設立に尽力し、日本の神経内科学の創設に中心的な役割を果たした。

氏は、日本を代表する神経内科医として、数多くの臨床研究及び基礎医学研究を牽引した。特に、特異タンパクのアミロイド物質が末梢神経、自律神経系、心臓、腎臓、消化管、眼などに付着して臓器障害を起こす難病である家族性アミロイドポリニューロパチーの原因究明、遺伝子診断法の確立および分子生物学的手法を用いた病態解明を行い、本領域において世界の研究をリードした。また、厚生省アミロイドーシス調査研究班班長、厚生省筋ジストロフィー及び関連疾患の病因と治療法開発に関する研究班長として難病研究に貢献した。

熊本大学を定年退官後も、臨床医として神経疾患患者の診療に従事すると共に、後進の育成を精力的に行い、熊大第一内科教授時代の門下生と共に、熊本県内の神経難病診療体制および脳卒中診療体制を構築し、今日の診療体制の基礎を築いた。

さらに、水俣病の臨床研究を行い、認定審査会の委員・会長および中央公害審議会委員を務めた。平成元年には、WHO IPCS (国際化学物質安全性計画) 会議に日本代表として参加した。

これらの功績から、環境保全功労者表彰、武田医学賞、熊日賞など多数の賞を受賞。また平成17年に瑞宝中綬章を受章した。

昭和57年4月～平成4年3月	熊本大学医学部第一内科教授
昭和60年4月～平成元年3月	熊本大学医学部附属病院長
平成4年3月	熊本大学定年退官
平成4年4月	熊本大学名誉教授
昭和45年1月～昭和53年10月	熊本県公害健康被害認定審査会委員
昭和54年2月～平成9年1月	臨時水俣病認定審査会委員及び委員長
平成2年5月	中央公害対策審議会委員